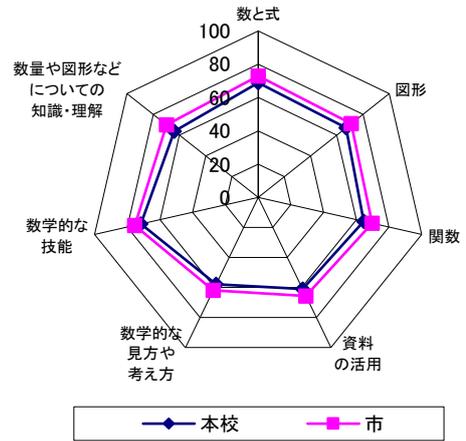


宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	68.9	73.0	67.5
	図形	67.0	71.1	59.5
	関数	64.5	69.7	60.0
	資料の活用	61.0	65.6	58.5
観点別	数学的な見方や考え方	57.8	61.8	49.6
	数学的な技能	71.7	75.4	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	63.9	69.8	62.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○ $(x+m)^2=n$ の形の2次方程式を解く問題や、連立方程式を解く問題では、市の平均より高い。 ●数と式の領域では、市の平均より4.1ポイント低い。	・連立方程式や2次方程式の、文章問題の正答率が特に低い。読解力が低く問題の意味がよく理解できない、または初めから文章問題を解くことをあきらめてしまっている可能性もあると考えられる。文章問題では想像力を働かせ、何を聞かれているのかを明確にしていくよう、授業中に促す。
図形	○与えられた事柄から、正しい三角形の合同条件を判断し、証明を完成させる問題では、2ポイント高い。 ●図形の領域では、市の平均より4.1ポイント低い。	・図形の領域では、三角形の合同の証明問題を完成させる問題では正答率が8割と比較的高いが、多角形の内角の和の性質を問う問題では、正答率が比較的低い。基礎的な内容については、授業中に繰り返し確認する。
関数	●関数の領域では、市の平均より5.2ポイント低い。特に1次関数について、式とグラフを関連づけて問う問題では、市の平均より9.2ポイントも低い。	・関数では、式、表、グラフの3つを関連付けて考えられることができるよう授業中に強調するとともに、演習問題をすることで理解を深められるようにする。
資料の活用	●資料の活用の領域では、市の平均より4.6ポイント低い。	・ヒストグラムの特徴をもとに説明させる問題の正答率が特に低いことから、グラフや表を深く読み取ることができるよう、授業中に投げかけたり、問題演習に多く取り組ませる。